

生きる力

周南学びの旅推進協議会から「地域滞在交流促進セミナー」のご案内を頂いた。セミナーは12月まで美祢市秋芳町と山口市湯田温泉で三回開催される。内容は地域の風景、風俗、文物等を見たり、体験したりするツーリズムの具体的な取り組みの紹介です。

第一回会場は秋吉台国際芸術村、発表は高知県越知町の取組み、セミナーは進行調整役の中村雅子氏、講師は地域おこし協力隊の二十歳代の若者二人でした。始めにお話をされたのは「山笑う横島集落活動センター」の大原梓さん。横島は越智町の中心地から20分ほど山道を登ったところであり2000人位



横島地区(資料より)

第 59 号

令和元年 10月 10日
文責発行：中西秀幸
〒745-0302
周南市鹿野上 3217 番地
TEL 0834(68)2106
FAX 0834(68)2103

が暮らしている集落。平成14年に休校となった横島小学校を地域拠点に、宿泊・喫茶・売店(日用品販売予定)・コインランドリーなどを運営されている。大原さんは協力隊として横島に、一年前結婚されて地域に一人しかない二十代の住民となられた。儲けのない事業でも必要だからやる喫茶、儲けるためのランドリー事業その様に区別してはなく住民皆で活躍できる組織運営のお話が心に残りました。

次に話されたのは「ゲストハウス縁」を開業された金原隆生さん。地域おこし協力隊として来町し、ゴムボートに乗り、皆で力を合せて川を



セミナー資料より

「鹿野総合支所のコアへの移転が計画通りに進まない可能性、山銀鹿野支店が共に移転するという前提が崩れた為」と10月1日付中国新聞が報道。山銀は別の移転先へ、あるいは統廃合されるかもしれない。住民アンケートなしでコアへの移転が決定された結果、いまだに地域内がゴタゴタしている。今こそアンケートで鹿野住民の意思を多数決で確認したらどうだろうか？

下っていくラフティングに魅了された。それを好きだけでなく経営として成立させるために素泊まりの民家宿泊を始められました。

このセミナーには鹿野から私を含めて三人が参加しました。セミナー終了後、昼食を共にしながら様々に語り合いました。鹿野にも地域おこし協力隊を、事業は経営的に成り立つことが大切、そのために詳細な調査をする、数字に裏づけされた事業計画はなくてはならないなどです。このおしゃべりが大事なのだと思います。一人で学び体験したのでは、気づきを共有できないし深められません。

おかげで越知町を訪ねてみたくなりました。どのような宿泊施設か、コインランドリーは予定通り収益事業となっているか、売店の収益状況など興味は尽きません。

地域イベントご紹介

◎カントリーフェスタ

- ・場所 せせらぎ・豊鹿里パーク
- ・日程 10月13日(日)
- ・時間 10時～15時
- ・内容 音楽と食のコラボ
- ・主催 樹かの高原開発

◎いつておかえり鹿野市

- ・場所 鹿野中心部
- ・日程 10月26日(土)
- ・時間 10時～15時
- ・内容 フリーマーケットなど
- ・主催 鹿野ブランド創出研究会

周南掃除に学ぶ会

剪定中に土手から落ちて右手首を骨折。加えて台風17号接近、そんな事情で22日の掃除は中止。もし飛び入り参加された方が居られましたら、紙面上で恐縮ですがお詫び申し上げます。全治二ヶ月位です。11月には再開する予定でございます。引き続きのご支援、ご参加を、よろしくお願い致します。骨折のおかげで、何事も一挙手一投足を丁寧にと学びました。

店内開放のご案内

「第16回いつておかえり鹿野市」が10月26日(土)27日(日)10時～15時、鹿野中心部にて開催されます。今回、不用品や再生が可能なものを広場に持ち寄って売買・交換して再利用するフリーマーケットが新たに行われます。その会場は山銀の跡地に設けられ、一人当たりの広さは畳一枚半。出店無料で面倒な書類作成や報告義務もありません。10月15日までに鹿野町商工会に届け出するだけです。売買品は飲食を除く、自家栽培の野菜、趣味の手芸品や小物、子供服やおもちゃ等を想定されているようです。中西商會も鹿野市開催のたびに中古和服を店頭にて無人販売して参りましたが、今回は交換や売買もできるフリーマーケットとして参加します。そして、品物を濡れさせたくない方などの為に店内を無料で開放します。ご希望の方は中西までご連絡下さいませ。

人は考え方だけではなく感じ方で

「どうして死んではいけないの?」ときかれて「私もわからないけれど、あなたには、もうちょっと生きて欲しい。」そのように答えられたのは、9月12日、かのコアプラザでの講演会講師、臨床心理士の堀江秀紀先生です。続けて、命の名言を紹介されました。『命は大切だ。命を大切に。こんなこと何千万回言われるより、「あなたが大切だ」誰かがそう言ってくれたら、それだけで生きていける。』

いじめ等による子供の自殺が社会問題となつています。命は大切、だから死んではならない、そんな理屈だけでは自殺は防げないかもしれない。そんな理屈だけでは自殺は防げないかもしれない。自分の事を大切に思う人が目の前にいる、自分の事を気にかけて言葉をかけてくれる人がいる。その実感が生きる力を育みます。

不登校、非行、引きこもり、虐待、ネグレクト、自殺など心の不調による事件報道が頻繁です。それらは様々な要因がからみあい、悪循環となつて生じている。身体の傷は治るが心の傷は治りにくく禍根を残す。虐待する親も子供の時に虐待を受けている場合が多い。どうすればこの悪循環の連鎖を断てるのかと質問しなかつた事が悔やまれます。さらに、子供は警察や児童相談所だけでは守れない、地域ぐるみの協力が無いと守れないと話されました。

子育て中の若い方がきかされると良いお話でしたが、人は考え方だけで動くのではなく、感じ方で動くのだとの思いを強くできました。